

# ほろけん

342 物忘れ



## 大崎短歌会

兼題『七五三・自由』

玉砂利のびよんぴよんぴよんと心跳ね  
七五三の児らよ青空のもと 井元かず子  
稚児と稚女成長祝う七五三 実吉安仁  
集う宝児 都満のお宮に  
七五三古いアルバムに亡母の顔 川崎健一  
親子宮参り昔を想う  
七五三着物の裾を引きずりて 栢山重子  
千歳飴手に満面の笑み  
孫の手に引かれて歩む杜の道 山下海征  
七五三祝う列に混ざりて  
七五三まろき手握り宮参る 馬場みさ  
袴そろそろ草履も歩む  
七五三祝う子供の集落に 穂園芳江  
一人もいないこのさびしさよ

寝坊する窓を開ければ煌々と

朝日は高く我を見下ろす

朝一番お茶を供えて経読むと

言はれし友よお変わりなきや

坂元つる子

## 薩摩郷句

兼題『凄ぜ』

凄ぜえ兄弟 魂しゆ揺さぶい 津軽三味線  
(唱) 身震れしつ聴つ 全部の聴衆 長重リリー  
凄ぜこつ 外ちも出られん 熊被害  
(唱) 出も入もならじ 生活ち困つ 上窪小絵  
凄ぜ怖じ 逆走車と 出合せつ  
(唱) 目の前へ車 逃げざつも無し 上村牛歩

凄ぜ長げが 生きつちよいかち 婆ん風呂

(唱) 覗けば暢気き 体操どんしっ

西ノ園ひらり

凄ぜ怖じ 鰻上いの 防衛費

(唱) 戦争ん道つば 走らせんかよ

井上三ちゃん

凄ぜ笑るた 婆ん総入歯や ひっ落れつ

(唱) 笑る時きや口ちい 手を添えやんせ

佐藤ぼっけちゃん

初外交 運も実力ち 凄ぜ恵つ

(唱) 立派なもんじや 男も敵わん

諸木小春

子供の斜視が スマホん見過ぎ 凄ぜ増つ

(唱) 時間ぬ決めつ 使こごっせん

藤元鬼瓦

町長選 凄ぜ公約き 決め切らじ

(唱) ど人も立派 籤で決むかい

二見愚染満

凄ぜ御馳走 三割引くば 平然出つ

(唱) スーパをそんまま 皿れ見事つ盛つ

北村虎王

凄げ事じゃ ドジャースん中け 神が居つ

(唱) 神の御加護か ピンチもぴしゃつ

下橋清天

凄ぜいか 強烈ん転倒つ 怪我もせじ

(唱) 骨もしっかい 食事が良たら

満石うらら